



★青少年アクションの例：「平和資料センター」設立に向けた話し合い@屋外の小屋。何だかカワイイ。🌸 暴力や過激主義が蔓延してきた地域。誤った道に行かないよう対話や相互理解の促進、職を得るサポートなども予定！



★青少年アクションの例：青年、特に女性たちへのキャリアカウンセリングについての話し合い★参加した教員たち。他の参加者は現地の女性たちが置かれた状況により、写真撮影・掲載ができませんでした。



★青少年アクションの例：パキスタン・アフガニスタン青年間対話！
★紛争の責任を両国が相互非難するような状況も。平和のために対話が必要！ユナイト！



★青少年アクションの例：多様な宗教施設訪問アクション！★
キリスト教教会（2回の自爆攻撃を受け、100名以上の方が亡くなった。亡くなった方の追悼碑）、ヒンドゥー教寺院、イスラム教モスク

【活動概要】

パキスタンとアフガニスタン国境地帯には様々な武装勢力が存在している。両国市民とも戦闘や厳しい治安状況の犠牲となっており、このことがまた、復讐心などから暴力的な過激主義の影響を受けやすい状況にもつながりうるという悪循環にもなっている。青少年層はこうした過激主義の影響を受けやすく、さらには戦闘などの「訓練」を受け（させられ）たりする状況があり、自爆攻撃の大多数が青少年によって行われているともいわれる。パキスタンのこうした青少年たちは、アフガニスタンでの戦闘にも向かっているともいわれる。そこで、①パキスタンのアフガニスタンとの国境地帯にて、青少年が何らかの平和的な地域活動を自ら立案し、実施することをサポートし、平和的な手段での自己肯定につなげてもらうとともに、こうした活動によって地域からの平和をつくる活動を行う。

また、パキスタンとアフガニスタンの両国間で「相手国側が自国の利益のために自分たちを攻撃する武装勢力を支援している」といった相互非難も見られる。そこで、②活動に関わったパキスタンの青少年たちを中心に、アフガニスタンとの交流を行い、平和のための両国間の連帯につなげる。

【活動期間】

2020年4月-2021年3月（2年度目）

【活動場所】パキスタンのハイバル・パシュトゥンフワ州の州都ペシャワール（紛争の影響を強く受けるアフガニスタンとの国境地帯）

【現地パートナー団体】Sustainable Peace And Development Organization (SPADO) :



【活動の成果と課題まとめ】

■ 成果：

- ・ 青少年自身の発案・実施で、驚くほど興味深く、多様な22のピースアクションが生き活きと行われた。
- ・ 過激化する者も多いといわれる青少年層にとって、平和的な手段での自己肯定の実現となった。
- ・ 地域社会の多様な層の参加、協力も得ながら、地域に応じた、地域からの平和をつくる活動を実施できた。
- ・ アフガニスタンや国境地帯出身者、多様な宗教・宗派、女性たち、トランスジェンダーの青年たちを含む多様な層の参加となり、過激化が広がり、他者を攻撃・排斥するような状況があった紛争地にて、多様性の共存を実現できた。
- ・ 女性の社会参加や権利享受が困難な地域であるが、地域社会との適切な関係を持ちつつ、女性の活動参加や権利の啓発活動を実現することができた。
- ・ 活動参加者・協力者を中心に、地域の平和の担い手や、その活動の場や拠点を強化することができた。
- ・ アフガニスタンとパキスタンの青少年の活動参加を含め、両者間の対話、協力、連帯を実現できた。アクションには、両者の対話そのもの、アフガニスタンとの連帯を図るもの、アフガニスタンの人びとの課題を議論するものもあった。アフガニスタンの平和活動関係者とのオンライン経験交流も実現できた。
- ・ 以上の成果の実現に加え、それらが可能であることを、広く社会に示すことができた。
- ・ 初年度参加の青年たちがメンター（助言者）としての役割を果たすなど、活動の持続性が担保された。

■ 課題：

- ・ 過激化や紛争に苦しんできた地域であり、こうした平和の試みはまだ限定的である。社会の一部において一過性のものとして行うような平和の取り組みでなく、社会に根付き継続した（＝広く深く長い）取り組みを実施する必要がある。
- ・ 女性の参加はある程度実現できたものの、いまだ活動参加や行動への制限があり、権利享受に困難がある。

【活動 1：準備活動】

【計画①】 スタッフ雇用・研修、関係者への活動の導入的説明など。

【報告】

【スタッフ雇用・活動最終確認】

- ・ 5/15。パードナー団体「SPADO」ペシャワール事務所。
- ・ 活動目的・内容、スケジュールなど確認。初年度（2020 年度）の活動により、意欲のある青年たちのネットワークを築けていること、青年たちは自身の地域の平和のために活動する意欲があることを確認。

【スタッフ・オリエンテーションと研修】

- ・ 5/21。SPADO ペシャワール事務所。
- ・ 活動目的内容、実施方法、青少年参加者選考の基準、地域社会との連携方法、会合・報告・会計・物資サービス調達手続、行動基準、リスクの可能性と対処などを確認。

【関係者への活動の導入的説明】

- ・ 5/1・5・30。コロナ対策としてオンラインなど使用。
- ・ 行政：旧連邦部族直轄地域（FATA）、KP 州の青年、KP 州の女性、教育、情報の権利、災害対策に関わる部署の関係者。ジャーナリスト、社会活動家、女性活動家、政治指導者、青年問題専門家、教員組織、宗教学者。
- ・ 活動の導入的説明、サポートや連携の依頼と議論など。参加者からは、ソーシャルメディア・ジャーナリスト、宗教学者、政治指導者といった青年たちが社会の青年たちを誤らせているため、特に留意をすべきであり、こうした青年たちを今後の活動に関わってもらうように、自分たちがつなげることができるとの意見があった。参加者の青年たちの選定を含め、活動への協力も表明された。

【活動 2：関係者との協議】

【計画②】 青少年グループ（リーダー）との協議（10 人/1 グループが 5 グループ）：プロジェクトについての説明、地域状況の聞き取り（暴力・紛争・原因・関係主体・平和に必要なもの・活動参加候補者などについて）、本活動への参加促進。準備段階から協議をすることによって主体的に関わってもらおう。

【計画③】 地域社会（指導者ほか）、市民社会（NGO や市民団体など）、政府・地方行政関係者（教育や青少年関係省庁部署）、宗教指導者、メディア、研究者などとの協議（10 回）：プロジェクトについての説明と活動参加促進。青少年の意見を聞くことや、青少年のモチベーションを高めてもらうことなども要請。

【報告】

- ・ 青年グループ：5 回。6/8-14。地域内。59 名参加。
- ・ 地域社会、教員、市民社会組織（CSO）、青年リーダーたちなど：10 回。6/10-17。地域内、関係事務所、会議場など。66 名参加。



- ・ このプロジェクトの活動地域は、社会から疎外されている地域で、過去に暴力事件や麻薬、その他、暴力的な過激主義に関連するものによる影響を受けた場所である。民族、政治、宗教・宗派などで分断され、暴力的な過激主義集団は、そうした地域の青年たちと地域社会につけこんでいるといわれる。
- ・ 活動についての説明、地域に関する情報交換、活動参加青年の選定の開始、青年たちの組織化、連携の構築などを行った。



★過激主義の原因や問題点として、以下の点があげられた。

- 青年たちはソーシャルメディアに大きく影響されている。ソーシャルメディアにおける争いを指向する映画やビデオにより青年たちに寛容な振る舞いがなくなった。また、ソーシャルメディアをネガティブな目的に使用することもある。
- 社会の支柱である宗教学者にも、青年たちの間に平和と調和を促進しようとしないうる者がいる。
- 政党の関係機関の中には、青年たちを使って自分たちの利益になるような活動を行っているところもあり、教育システムの中での大きな争いの元となっている。
- 教育機関のカリキュラムに適切な平和教育の科目がない。
- 建設的な対話や相互扶助、信頼構築のための生産的でポジティブな場がない
- 地域や集団の集まりで、意思決定や争いごとの解決などを行うジャルガ/ジルガは、パシュトゥ文化における平和のシンボルであり、年長者は青年たちを受け入れる準備ができていたのだが、青年たちはこれに参加していない。

★また、以下のような提案や要請、コメントがなされた。

- コミュニティの事柄について背景知識のある青年リーダーやジャーナリスト、ソーシャルメディア活動家、若い宗教指導者などをトレーニングに呼んでほしい。
- 様々な分野の青年たちとのカウンセリングを実施して、何らかの方向を示し、この活動にも関わってもらい、彼らがもっている現在の社会システムや他の青年たちへの不信感を取り除いてほしい。
- 青年たちたちは様々な物事に触れていないので、積極的に違う世界を見せることも必要であり、体験訪問のようなものを行ってほしい。それによって、知識や理解が深まり、自身が果たすべき役割を効果的に果たすことができるようになる。
- 政党の関係機関に関係する青年たちもトレーニングに招いて、平和と寛容の精神を伝えていく予定である。
- このプロジェクトでトレーニングを受けた青年たちたちが、地域の青年たちを、ソーシャルメディアや通常メディアをうまく活用してポジティブな活動を行う取り組みや場につなげることになるだろう。
- 青年リーダーたちが、若いリーダーや宗教学者、学術機関、関係政府機関、市民団体に積極的に働きかけて、青年たちが信頼できる環境を提供し、青年たちが生産的に、ポジティブに、暴力的な過激主義に対抗できるようにしていく。
- もし資金などがあれば、青年たちの対話の場をユニオン・カウンスル（行政単位）レベルに設けたい。こうした場合は、地域の平和に影響を与える地域の争いごとなどを明らかにする責任を負うことになるだろう。
- 宗教学者へのトレーニング計画も作ってほしい。
- またジャルガ/ジルガのメンバーたちも紛争解決のための技術について適切なトレーニングを受けていないので、可能であれば、トレーニングを行ってほしい。こうした活動は、平和な社会に寄与する。
- 今後の活動には女性も招待したい。



★コロナウィルス対策のため、移動や会議に一定の制限があった。消毒・マスク・屋外会議などの配慮を行った。



【活動 1：青少年ワークショップ】

【計画④】研修に参加する青少年 150 名の選定と活動趣旨内容説明・参加促進：選定には地理的分布、ジェンダー、民族、宗教/宗派、(紛争による)障がい、年齢、個人的背景などをできるだけ考慮。宗教学校(マドラサ)の生徒も含まれる可能性あり。

【報告】

- ・ 7 月。地域社会ならびに大学、教育機関にて。青年グループリーダー、地域社会の人びと、宗教学者、政治指導者、政府関係者ほか参加。
- ・ これら参加者に、あらためて、活動や参加する青年たちの選定過程について説明。そのうえで、参加者により、候補者リストが共有され、そこからさらに考慮基準などに基づき、選定。
- ・ 初年度(2019 年度)同様、アフガニスタンや連邦直轄部族地域(FATA)出身者、イスラム教徒(スンニ派、シーア派、Bareli、Alhadis)、ヒンドゥ教徒、シーク教徒、キリスト教徒、女性たち、トランスジェンダーの青年たちを含む多様な層の参加となっている。過激化が広がり、他者を攻撃・排斥するような状況があった紛争地にて、画期的なことである。

【計画⑤】ワークショップ実施(5 回)：選定 150 名を対象とした、民主主義、平和構築、リーダーシップの研修。参加者の能力強化のため、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーションなどのさまざまな手法を用いた参加型研修ワークショップを実施。

【報告】

- ・ ほぼ予定通り実施。参加人数(150→約 200 人)、回数(5→6 回：8/19・8/20・10/17・11/11・11/12・1/15)。ペシャワール市内のゲストハウス会議室。男性 123 名と女性 77 名の計 200 名。
- ・ マニュアル：実際に WS を行う際の実施用マニュアルを使用。昨年度と同じもの。下記の WS の組み立てにあるような構成と内容。
- ・ WS の組み立て(参加型で実施)：
 - 1) WS の説明とアイスブレーキング(個々のアイデンティティについて知る。参加者間で信頼構築する)：
 - WS の説明。
 - この WS に期待するものを参加者で書いて壁に貼りだし、WS の途中にも、これらが満たされたかななどを参照する。

- 参加者の多様性を図っている中、お互いをよく知り、仲間意識も持っていくために、隣に座っている人のことを、参加者に紹介するなどする。
- 「見える特徴（外観など）」「見えない特徴（価値観など）」また、「自分も人も知る自分」「自分が知る人が知らない自分」「自分は知らないが人が知る自分」「自分も人も知らない自分」を挙げていくなどの作業を行う。作業を通じ、それぞれがそれぞれに特有の環境の中でアイデンティティが形成されること、よって、人はみな異なることを理解する。また、同じ目的を持っていても、人によって、その実現手法が違うことなどを理解する。人はそれぞれ違うのであるから、違いを受け入れ、祝福すべきであり、違いを排除したり、それを暴力的な過激主義をとる根拠にしたりすべきではないことを学ぶ。

2) 紛争の理解と紛争の分析

- 木の図式の中の根、幹、葉などに模した形で、紛争の原因・きっかけ・主体・現象・影響などを当てはめていく「コンフリクト・ツリー」のワークを通じ、紛争について理解する。
- その後、参加者はグループ（4、5グループ程度）に分かれ、上記の紛争分析に基づき、地域にある紛争について取り上げ、書き出し、議論する作業を行う。グループによって、以下の紛争が提示され、作業が行われた。
 - WS1 回目：ある地域での宗派間紛争（スンニ派とシーア派）と青年の関与、紛争が青年に与える精神的影響、土地をめぐる争いと青年の関与。
 - WS2 回目：土地をめぐる争いと青年への被害、地域での殺人をめぐる争い、水をめぐる隣人間の争い。
 - WS3 回目：子どもの遊び場の取り合いから親も加わって大きくなった争い、異なる宗派の宗教学校間での宗教的な考え方をめぐる争い、少女のレイプと殺害事件、森林地帯の木の帰属をめぐる家族間の争い。
 - WS4 回目：男性教師によるセクハラ、女性の婚姻が親族によって決められる社会での親族内での争い、ビジネスのアイデアの窃取をめぐる争い、ある地域での宗派間（スンニ派とシーア派）での宗教思想の相違をめぐる争い。
 - WS5 回目：女性の友人をめぐる友人間の争い、宗派間紛争、父親の財産における女性の財産権、大学における政治団体の思想をめぐる争い。
 - WS6 回目：大学における課外事業をめぐる生徒と教員の争い、国境沿いのある地域で続く女性の投票権をめぐる2つの政党の見解の相違と争い（2グループが同テーマ）、家族の殺人にまで発展した離婚をめぐる夫婦間の争い

3) コミュニケーションについて（議論・対話・討論）

- 様々なコミュニケーション手法について学ぶ。まず相手の意見を聞くこと、状況によって、取るべきコミュニケーション手法があることなどを理解する。

4) 交渉の手法

- 紛争、争いごとを解決するための様々な交渉の手法を学ぶ。



5) 「社会アクションプロジェクト」の説明と形成作業

- このワークショップを踏まえ、地域の紛争を解決する、平和をつくると参加者自身が考え、地域の人びとに働きかけて行っていくことになる、何らかの平和アクション「社会アクションプロジェクト」についての説明。
- こうしたアクション自体になれていない青年たちに、アクションがどういうものかを、様々な例のビデオ紹介なども行いながら説明。
- その後、グループに分かれて、プロジェクトの形成作業をしてもらう。

6) イスラムと平和（講師：ペシャワール大学イスラミックセンターの宗教指導者）

- イスラムが平和の宗教であることを、クルアーンや歴史なども通して説明。



- ・ WSの結果として、青年たちは、紛争と平和にかかわる知識や、平和をつくるための取り組み方に関する知識を得る、もしくは増やすことができた。
- ・ またそれだけでなく、平和をつくっていくことへの意欲を高めることができた。
- ・ さらに、こうしたことに取り組む青年たちの集い場を作り出すとともに、具体的な取り組みに向けての連携と協力を行えるようになった。

【計画⑥】 その後、参加者を、それぞれの地域、技術、所属を考慮してグループに分け（各グループ 10 人*15 グループ=150 人）を予定）、地域での社会活動のためのアイデア共有を行ってもらおう。青少年自らがプロジェクト案を作成するのをサポートする。

【報告】 予定通り実施。人数の増大に伴い、10 人×20 グループ=200 人となった。

【計画⑦】 青少年の地域社会関与に必要な人・資・機材などの準備、作成、提供

【報告】 予定通り実施。

【活動 2：社会アクションプロジェクト】

【計画⑧】 メンター（助言者）がそれぞれの青少年グループに割り当てられ、グループと密接に協力し、地域での社会活動プロジェクト案（15 グループで 15 プロジェクトを予定）の完成と実施をサポート。メンターは、平和構築に関するトレーニングを積んだ、現地パートナー団体（SPADO）（後述）スタッフ、もしくは活動地ペシャワールを拠点とする平和構築に関わるネットワークのメンバーで様々な組織で働くシニアの SPADO 協力者たちが務める。宗教学校（マドラサ）の生徒が参加している場合、宗教指導者と協働する。

【報告】 予定通り実施。アクション／グループ数：15 から 20 へ。

【計画⑨】 青少年が地域社会に働きかける形でプロジェクト実施：

【報告】 予定通り実施。アクション／グループ数：15 から 22 へ。地域社会の人びとも広く参加し、青年たちが立案した以下の 20 のアクションを実施。地域から約 1,000 名が参加。(①9/9、②9/9、③9/12、④9/11、⑤9/10、⑥9/11、⑦11/13、⑧11/14、⑨11/15、⑩11/30、⑪12/1、⑫12/2、⑬12/21、⑭12/30、⑮1/11、⑯2/25、⑰18/3/3、⑱3/10、⑳3/16、㉑2/22、㉒3/22)

✳ ①「平和資料センター」設立アクション！✳



「平和資料センター」設立に向けた話し合い@屋外の小屋。何だかカワイイ。暴力や過激主義が蔓延してきた地域。センターでは、青年たちを中心に、誤った道に行かないよう、対話や相互理解の促進、職を得るサポートなどを行う予定。場所は、すでにある地域の寄り合い場の利用が提案されています。

✳ ②「平和のための人の道！」対話集会！✳



人の生き方や、個々の人生にかかわる対話集会。薬物や窃盗事件も多数ある地域。問題となっている若者たちを参加させてほしいとの要請もあり、事前会合 6 回+このアクション！若者たちには自分たちの感情や意見を吐露する場が設けられ、よい方向への動機付けをするような具体的な様々な話も共有されたとのこと。その後は、この若者たちは大きく変わり、地域の人たちと交流、さらに、その他のピースアクションなどにも参加したいとも！「ピースビルダーズ！」「人は変わることができる！」

✳️③平和人列伝☆アスリート編ークリケットを通じたピースアクション！✳️



青年たちは地域の参加者に、スポーツがもたらす同じ目標への行動、他者への敬意、共通体験、分断の克服、集団の交流などを説明！また、地域にある多くの暴力にも言及し、平和づくりへの協力を訴えました！その後、チームに分かれて試合開始！子どもたちもピース！

✳️④「銃ではなく教育を！」アクション！✳️



「息子たちは銃である」…何という表現。銃の所持が普通になされている地域。こうした表現も使われるとのこと。家族間、土地、民族に関わる争いごとで、常に危険を感じるため、身を守るために銃を使用するのだといいます。男性が争いごとに関わるので、男性たちの力があることで相手方に圧力をかけることができるのだといいます。貧困地域でもあり、ほとんどの子どもたちが児童労働に従事しているそうです。こうした状況から、「銃ではなく教育を！」という地域での話し合いのアクション！銃の違法性、教育の必要性、紛争に苦しんできた地域に導入された無償教育制度の説明などが切々と語られました！子どもを学校に行かせるようにすると、その場で約束する人もいたそうです！すごい！

✳️⑤宗教者とのネットワーク！ー平和の取り組みのためにー✳️



宗教は、平和のために大きな役割を果たしています。そこで、平和の取り組みのための宗教者との話し合いのアクション！複数の宗派からの参加！青年たちは「皆さまは団結のシンボル。人びとは皆さまのお話を尊敬しています。平和を促進し、青年たちが地域で平和に行動するよう働きかけてほしい」と伝えました。その後、宗教者は、日々の暮らしでの平和的な振る舞いを促してくれています。また、宗教学校（マドラサ）の青年たちには、宗教教育とともに、社会の他の側面についての知識を高めるため、政府の学校での教育も開始するよう促しているそうです！

✳️ ⑥「ジルガ」設立アクション！ー地域の伝統的な紛争解決システムー✳️



紛争や過激化の影響は、紛争解決のシステムにも及び、機能しなくなることがあります。パキスタンのアフガニスタンとの国境地域は、こうした影響を特に受けています。そうした中、青年グループが自身の地域でこのアクション！「ジルガ」は地域の伝統的な紛争解決システムで、話し合いによる参加型、迅速、裁判のようにお金がかからないこと、地域言語で行われることなどの特徴があります。青年たちは参加した地域の人たちに「ジルガ」についての説明をあらためて行い、参加者自身が「ジルガ」メンバーを選出！メンバーは、紛争解決や青年たちの平和活動への協力を約束してくれました！

✿⑦パキスタン - アフガニスタン青年間対話！✿



両国に存在する紛争や暴力、過激主義をめぐる相互非難も多い中、画期的！ペシャワールにも、アフガニスタンから逃れた難民の人たち、その子や孫たちがたくさんおり、大学でも学んでいます。この対話では、双方の学生たちが意見の違いから相手の国旗を燃やした事件、アフガニスタンの学生が外国人として直面する問題、アフガニスタンの学生もパキスタン国家の団結に否定的な発言があること、教育が過激主義を助長する要因にもなっていることなどが報告。どれも深刻です。そして参加者たちは、双方の学生で大学内外の青年に関わる問題を解決していく委員会を設立！すごい！まさにユナイト！

✿⑧ストリート・ピースアート！✿



青年たちが町の通りでピースアート！アートをしたこの通りをこう呼ぶことに！**Friendly Street of Pakistan and Afghanistan**！この通りには多くのアフガン難民が暮らしており、難民やアフガン国境地帯などに関わる政府当局、市民団体、人権活動家なども利用する施設があることから、アピールを行いたいという理由です！住民の協力や参加もお願いの上、実施！**We want Peace！Youth for Peace**や**Blessed Are Peacemakers**のほか、「(よい人悪い人は外見によるものではなく) よい人はいつも美しい」というメッセージも！

✳️⑨アフガニスタン出身の家族における女性教育の重要性✳️



ペシャワールの女性グループによる話し合いのアクション！この地には、アフガニスタンの紛争から逃れた難民や子孫が多く暮らしています。お互いの不信感からパキスタンの学校に通わせにくい状況もあるようです。話し合いでは、経済的な余裕がない、男性が女性の教育を許さない、家事が多く女性を学校に通わせられない、などの声が...女性は気を休めるような場所もなく家で働いているだけといった声も...今回の集まりは決して小さくなく、過酷な状況にある女性の集いの場、チェンジメーカーにもなっています。しかし、女性だけの努力っておかしすぎます...社会全体の変革へ！私たちの活動もその一部！ユナイト！

✳️⑩社会的多様性と促進に関する対話！✳️



多様な社会であるパキスタン。しかし、多様性の排除や、暴力的な過激主義も存在しています。この青年グループは様々な集団の青年たちを招き、社会的多様性と促進に関する議論のアクションを実施！トランスジェンダー、シーク、ヒンドゥー、キリスト教の青年たちが発言を行い、侮蔑的・差別的・否定的な発言を行うべきでないこと、アイデンティティ、尊厳、権利を認められるべきことについて話しました。参加者は最後に、社会の若い声として、自身も多様性を促進するために活動することを誓いました！

✨⑪多様な宗教施設訪問を通じたピースアクション！✨



これまで、過激主義によって様々な宗教施設も攻撃を受けるなどし、人びとが他の宗教をよく知らない、交わらない排斥するということが起きました。そこで、多様な施設を訪れ、相互理解、多様性尊重を促進するというアクションが行われました！訪問したのは、キリスト教教会、ヒンドゥー教寺院、イスラム教モスク、また歴史的な建造物や地域です。このキリスト教会は、2回の自爆攻撃を受け、100以上の方が亡くなっています。写真は、亡くなった方の追悼碑です。青年たちの、訪問時に受けた説明を真剣に聞き入る姿、他者を尊重する姿勢、まさにこうした行動、あり方こそが平和をつくります！すごい！

✨⑫アートを通じたピースアクション！✨



過激主義によって文化や平和的な集まりなどが攻撃を受け、恐怖から国外に逃げた人たちもいます。そうした中、青年たちが、詩を詠み、歌を歌い、劇を演じることによって文化を復興するアクションが行われました！それ自体がピースアクションですが、さらにその中で、平和が訴えられました！参加した青年たちも、様々な民族、宗教、集団を含んでおり、その多様性がピースアクション！熱のこもった詩、歌、劇に、参加者からも歓声やどよめきなども上がり、大いに盛り上がりました！



✳️⑬大学における女性のハラスメントについての議論✳️



女性たちが社会で様々な行動や活動の制限を受ける中、大学でも女性たちが男性の教員や職員からハラスメントを受けることが極めて多くあります。地域の女性たちが集まり、この問題について議論するアクションを行いました。議論では、大学では高い点数や奨学金、職場では賃上げといったものと引き換えに、一定の関係を持つように言われた事例なども共有されました。そして、そうしたことがありうることを意識し、自分を守るようにすること、女性を守る立法もあり、教育機関自体に事例を報告することの必要性などが共有され、他の女性たちにも意識喚起を行っていくことを確認しました！

✳️⑭青年（特に女性）へのキャリアカウンセリングについての議論✳️



女性たちは、一定の教育を受け、様々な専門性を身に付けている場合でも、社会的な制限、宗教的な影響、家族の介入などにより、家族の意思に沿った仕事、多くの場合には家事を行うことになるなどしています。こうした状況を議論するアクションが、女性の教員、若い女性たち、地域の女性たちを招いて行われました。参加者からは自身の意思に沿った職業への家族の反対、不和、さらに自身の意思による婚姻もできない、といった事例が提起されました。そして、自らの意思によるキャリア選択、家族や社会への意識啓発の必要性などが共有されました！教員たちは生徒たちにキャリアカウンセリングを行っていくということです！

✳️⑮女性への心理的なサポートに関する議論✳️



紛争、また避難生活によって、人びとは心理的な影響も強く受けます。暴力、虐待、搾取、差別などによるものです。女性や青年たちは特に固有の影響を受けています。ペシャワールには激しい紛争と暴力に直面したスワート出身者も多く暮らしていますが（ノーベル平和賞受賞者マララ・ユスフザイさん出身地）、その女性たちの要請もあり、この議論を行うアクションを実施しました。参加者たちからは、心理的な問題の原因として、虐待、不妊、結婚の仕組み、権利制限、感情表現の場の欠如、病気などに関わることが提起されました。また、こうした問題や感情の共有のため人びとをつなぎ合うこと、問題の意識喚起を行うことも訴えられました。参加していた教員たちは、こうした問題を他の適切な主体に託す仕組みも作っていることを共有してくれました！

✳️⑯宗教学校「マドラサ」の子どもたち！ - 平和や思いやりを絵に！✳️



宗教の学びが行われる「マドラサ」。社会の様々なことを知る、といった点からも、一般的な教育科目や課外授業的なものも取り組まれているようです！青少年は過激化の影響を受けやすいともいわれます。こうした中、ペシャワールの青年グループが、寛容な社会をつくりたい！と、宗教学校と協力し、平和や思いやりなどを絵にすることを通し、そうした心を育むピースアートの活動を実施！🙏その時の議論では、他の主体によってこうした活動が行われることがなく、疎外されていると感じるといった声もあがりました...とてもつらいですね。青年たちとのピースアート！よかった！今後も、青年たちとともにこうした活動が続いていきます！

✨⑬⑭地域のスポーツ（の再開/復興）を通じたピースアクション！✨（2グループのアクション）



現地ではスポーツは相互尊重、意思疎通、寛容の手段であるとされています。またスポーツを通じて人びとはつながり、集まった際に様々なことを話し合ったりもします。しかし、紛争や過激主義の影響で、こうしたスポーツの機会は減り、人びとは孤立しました。こうした理由から、地域のスポーツを再開/復興すること自体もピースアクション！企画した青年たちと地域の人びと、はこうしたスポーツの、またその再開/復興の意味を議論、確認し、そのうえで、3つのスポーツを実施しました！カバディ！綱引き！片足とび相撲！エクサイティング！

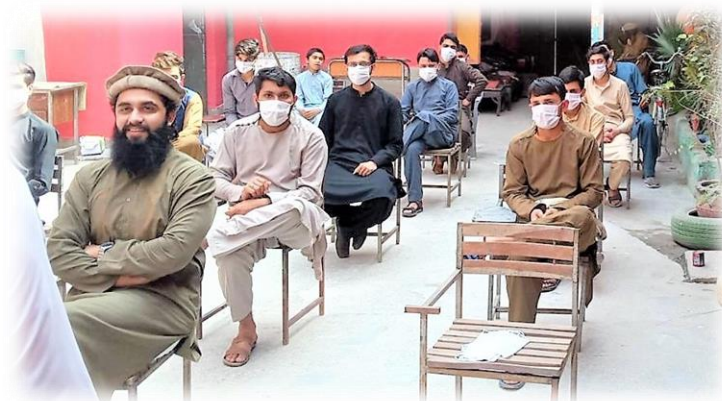


✨⑮「平和大使」の任命と宣誓イベント！✨



ワークショップで平和をつくることについて学んだ青年たちが、様々な地域出身の青年たちを「平和大使」として選定、任命し、それぞれの地域で責任をもって平和をつくる活動を行ってもらうことを決めました！選定の基準は、その地域出身であること、平和をつくることについての知識、地域に受け入れられていること、地域の人びとや青年たちとのネットワークなどです。アフガニスタンとの国境地域である旧「連邦部族直轄地域」を含む KP 州の様々な地域から 20 人の青年が選定・任命！この青年たちが集まり、地域の問題解決に当たること、地域の人権や寛容の促進のために青少年たちに活動に関わってもらうことなどの役割を確認、宗教指導者による平和とイスラムについての説明も経て、「平和大使」の役割を誓う宣誓を行いました！日本からも当団体理事が参加！

✳️②①平和に向けた対話の場づくりアクション！✳️



建設的な対話、協力、信頼関係づくりを行う場の欠如は、人びとの過激化の要因となりえます。そこで、こうした場をつくるアクションを青年たちが実施！地域や青年リーダーたちが参加しました！企画した青年側からは、地域の紛争を解決する場である集まり「ジルガ」も今は廃れてしまい、解決を行おうとする者がいないことなどが提起され、参加者に経験共有が呼びかけられました。参加者からは、治安状況の悪化から、移動が難しくなり、個々が孤立、不信感が作り出される状況が共有されました。どのように平和について話し、人びとを動かすか分からず、今回のような取り組みがあったならという意見もありました。経験に学ぶつもりが、場づくりアクションが歓迎されていますね！今後も継続できるように参加者への協力が呼びかけられました！

✳️②②特別アクション：活動の振り返り 2 回✳️

様々なアクションを実施した青年たちが集まり、お互いの活動を紹介し、経験交流を行った。

②①【1 回目】

- ・ 「⑩社会的多様性と促進に関する対話！」アクションについて：自分が子どものころにヒンドゥー教徒もいるコミュニティに住んでいて、イスラムの子どもたちと遊べなかったり、へだたりを感じてきたりした。原理主義もあった。だから、多様な宗教とトランスジェンダーなどマイノリティを集めたアクションを提案・実施して、60 人もが参加した。これは 60 人というだけでなく、それぞれの家族にもメッセージが伝わったということ。このアクションの後、お互いの理解が深まり、ネットワークが作られた。電話番号を交換したり SNS のグループでつながったりするなどの進展があった。
- ・ 「⑪多様な宗教施設訪問を通じたピースアクション！」について：大虐殺があったキリスト教教会をめぐるスタディツアーも行った。マイノリティの宗教施設にはいかにないように、過激主義者が危険だ、という考えがあったが SPADO のような NGO のおかげでそれが可能になった。
- ・ パキスタンのアフガニスタン人について：60-70%の（パキスタンに居住する）アフガン難民は非識字。大学生にもチャンスが少ない。この人たちに活動に関わってもらい、将来国に戻ったときに活躍できるリーダーになるよう、参加を促している。教育を受けたものの義務として、アフガニスタンに対して間違った認識があると感じ、彼らへの搾取が起こっていることを見て正したいと感じた。9.11 が大きな原因。旧「連邦部族直轄地域」(FATA) や、ワジリスタンも特に大きく影響を受けて（アフガン難民が出

たことなども影響し)、治安が悪くなって、戦闘や「テロ」が起こった。この経験が、アフガン人に対する印象が一気に悪くなった原因だと考える。

- ・ **年長者の関わり**：青年が牽引しているアクションだが、子どもから長老たちまで参加している。社会の問題は青年だけでは解決できないので、年長者（政治指導者、宗教指導者、地域の集まり「シェーラ」）にも関わってもらっている。アクションの前にもこの活動の意図を年長の「有力者」たちに説明しているので基本的には協力的である。現地のパシュトゥン文化だと、地域の紛争解決などの場「ジルガ」などの場で、個人個人の意見を尊重してくれるので、青年に対してもきちんと向き合ってくれる。ただ地域性があり、場所によって異なる。
- ・ **女性たちの活動**：家族によっては、女性の活動参加を許さない場合もあるので、講師も参加者も全員女性ということで理解を得た。女性だけの会なのだ、ということを強調する。女性で活躍しているロールモデル的な存在に協力してもらうなども重要。女性のとりまとめ役もいい。一方でリスクもある。特に地方部だと女性が教育にアクセスできなくて、平和活動などは全く情報が無い。そういう場所では家々を個別に訪問して女性たちに意識喚起するのがいい。女性同士なら会える。



㊼【2回目】

- ・ 「㊼社会的多様性と宗教・宗派間の共生・調和」アクションについて：異なる宗派の友人ができたことは活動をする中で得た一番の成果で、SNSでもグループをつくり活発に連絡とりあっており、マイノリティグループの権利擁護のために活動を続けている。例えばキリスト教徒も断食をするということは初めて知った。ただ交流にあたっては準備も必要で、宗教指導者や、特定の人にまずは趣旨説明をして理解を得て、協力してもらってから、まわりに開いて、より多くの人に社会の中で共生・調和のメッセージを伝えた。
- ・ 「㊽多様な宗教施設訪問を通じたピースアクション！」について：よかったことは、実際に訪れてあたたかい歓迎を受けたことで、自分をはじめ、参加者の意識がガラッと変わったこと。他宗教の人にこんなにもよく接してくれるのかということを経験した。そして、違う宗教の豊かさに触れ、多様性を感じたこと、祈りをささげる聖なる場所を訪れたので、それぞれが他宗教・異なる人々の祈りに対し、リスペクトをもって見学できたこと。キリスト教徒と交流したりご飯をともにしたりするな、と言われて育ったので、多宗教の人と仲よくするのはいけないことだと思わされていた。そのような印象をもって実際に教会を訪問してみると、彼らは決してイスラム教徒の自分たちを改宗させようとするのではなく、兄弟としてあたたかく接してくれた。神父さんは、『教会が自爆攻撃を受けたときに真っ先に駆けつけて助けようとしたのはイスラム教徒だった、それに、負傷者がたくさん出たが、たくさんのイスラム教徒が献血に協力してくれた』と教えてくれた。また、食事を一緒にしないようにと言われてきたが、実のところ、食材は、自分たちイスラム教徒も調達している同じ店から来ているということを聞いたりして、そのような話が直接できたことで本当に自分の考えが変わった。
- ・ ㊾「「平和大使」の任命と宣誓イベント！」について：20人の平和大使に対してオリエンテーションを行い、しっかりと活動の意義と目的を伝え、毎日のように連絡を取り、日々の活動進捗や出来事を共有

してもらっていて、この交流自体が得た大きな成果。「平和大使」は自分の家族、親族など、身近なところから活動を実践する。もし自分の家族内で争いがあるのなら、まずは自分がそれを解決しようとすることから始める。それができてこそ、隣人や周りの人たち、社会でも影響力を持てる。自分自身が始める、というコンセプト。

- ・ 「⑧ストリート・ピースアート！」アクションについて：アフガニスタンのジャララバードに住んでいた自分の家族は難民となり、25年前にパキスタンに逃げてきた。ここは自分の国ではないけれど、第二の故郷。自分や家族はこれまで、地域や大学生活を送る上でもいろいろなハードルにぶつかった。アフガン難民に対する社会の受け入れがなかった。友人の紹介で SPADO のことを知ったときは本当にうれしかった。多様な考え方やバックグラウンド、それぞれが抱える日常の課題を打ち明け合うプラットフォームに出会ったのは初めてだった。プログラムに参加して、研修を受ける中で、社会の多様性を受け入れていく力を養っていった。そうやって自分のスキルや人間力も伸ばしていけると感じた。今まで、アフガン難民である自分のことや、自分の考えを話すのをためらう場面があったりしたが、今は自信をもって他者に伝えられるようになった。このプログラムに参加し、パキスタン人とアフガン人の青年に対して、平和の啓発を行っていくにあたって、その具体的な内容を考えるきっかけが、過去に自分の地域で、相手国の国旗を燃やすような行為を見て本当に悔しく、悲しい思いをしたことだった。両国の信頼や寛容な心をよびかけることをしたいと思った。今、自分と同世代のアフガンとパキスタンの若者たちが、大学でも、地域のレベルでも、お互いをサポートしあう、よい関係が作られてきている。今、学習塾の代表をやっていて、地域の学校でも先生として教えている。将来、アフガニスタンで教育を普及するアンバサダーのような存在になりたい。
- ・ 「⑫アートを通じたピースアクション！」について：詩と演劇を通じて、青年が平和への思いを表現するプラットフォームを作った。青年の詩人が、演劇や詩で平和を表現し、多くの青年に観劇してもらうもの。この活動のあとに、「平和の詩をよむ」という自分たちがもともと持っていた活動をやめてしまった友だちにも声をかけたところ、もう一度平和のために詩を作ろうと賛同してくれたことが、最もうれしかったこと。
- ・ 「⑦パキスタン - アフガニスタン青年間対話！」アクションについて：このアクションに参加したあと、両国のユースカウンスル（委員会）を設立した。両国出身の青年に呼びかけ、大学の内外で、いろんな課題に取り組むための仕組みを今作り上げている。特に、パキスタンに住むアフガン国籍の学生が直面している問題（外国籍であるがゆえ書類の証明がしてもらえないなど）について、解決を図ろうと動いている。SNS の影響で、悪いイメージも簡単に拡大されたり、歪曲してどんどん伝わってしまったという問題が出てきているが、それをポジティブな方向にもっていくべき。自分たちがそんな動きを作っていることを誇りに思っている。
- ・ 「④銃ではなく教育を！」アクション！について：研修でモチベーションが上がった自分は、自分の地域でこのアクションを行うため、ある地区を選びました。このアクションを行う予定にしていた当日、そこに住む友人から、「到着時間を遅らせるように」との連絡を受けた。事件が発生した、とのこと。この地区に住むある兄弟が土地をめぐる争っており、それが深刻化してまさに今、緊張状態にあるとのことだった。私はむしろ、これはある意味チャンスだと考え、仲間



たちと予定通りアクション実施のためにその場所に行った。そして用意していた平和のメッセージをスピーチの形で長老たちに一生懸命伝えたところ、長老たちはそれを聞いたのちに、兄弟のところに赴き、見事に二人を説得して争いを収めた。この実体験がうれしかったことで、自信につながった。

【計画⑩】 青少年、政治指導者、宗教指導者、政府当局およびメディアなどの間の調整と協力を発展させ、強化する。

- ・ 全期間。活動実施のための協議や、活動全体を通じて、地域社会の住民、政治指導者、関係行政、学校、宗教、市民団体、メディアなど、広く社会の参加と協力を得ており、調整と協力は発展、強化されている。

【計画⑪】 若者のオンラインでの効果的なキャンペーンとコミュニケーション能力の向上のための、映像・動画制作、ソーシャルメディア発信、グラフィックデザイン、デジタルおよびキャンペーン戦略の研修とメンタリングプログラムを通じ、青少年ネットワークを促進・強化。

- ・ 全期間。この活動を通じ、参加青少年たちによるさまざまな SNS グループが形成されたほか、Facebook の交換なども行われ、情報や意見を交換している。また、これらを通じて、青少年たちの雇用、奨学金、インターンシップなどの情報交換なども行っている。パートナー団体 SPADO もこれらの情報・意見交換に関与。

【計画⑫】 (社会アクションプロジェクトに直接関連しないが) 活動参加者に、暴力の可能性をなくすために、平和と寛容を促進する民主的な対話と議論の場（現地パートナー団体が行っているその他のセミナー、ワークショップ、会議、オンラインのソーシャルメディア企画など）を提供。

【報告】

- ・ 全期間。当活動を通じて、公式、非公式にこうした場を提供した。活動に参加した 2 名の女性が UN Women の会議で自身の経験を発表する機会を提供した。この女性たちは WS ならびに女性へのハラスメントに関する議論アクションの参加者で、この活動経験を発表している。

【活動 3：アフガニスタンとの交流・平和のための両国間の連帯】

【計画⑬】 活動に関わった青少年たちのネットワークの構築と、ソーシャルメディアやその他のコミュニケーションチャンネルを通じて、アフガニスタンの青少年たちとの交流や連携・連帯を行う。パートナー団体（SPADO）がこれまで両国の平和や、相互理解、信頼醸成のために連携・連帯してきたアフガニスタンの青少年たちやパキスタンのアフガニスタン難民などと実施。

【報告】

- ・ 青少年ワークショップや社会アクションプロジェクトを含め、当活動に参加した青少年には、アフガニスタンの青少年が含まれている。よって、活動自体が、両国の青少年たちによってともに実施されてい

る。両国の青少年の活動参加を通じ、両者間の対話、協力、連帯を実現できた。アクションには、両者の対話そのもの、アフガニスタンとの連帯を図るもの、アフガニスタンの人びとの課題を議論するものもあった。

- また、パキスタンの活動に参加している青年たちならびにパートナー団体 SPADO と、当団体がアフガニスタンで行っている平和活動で中心的な役割を果たしている青年を中心とする地域リーダーたちならびに同国パートナー団体 YVO のスタッフとで、オンラインでの経験交流と連帯を深める会議を行った。日本からも参加した。両国に存在する紛争や暴力、過激主義をめぐる相互非難も多い中、画期的である。活動の経験交流では、活動の地域へのインパクト、ダイレクトな平和活動の難しさへの対処、活動への宗教者や地域指導者の関わり、教育が平和に果たす役割、アフガン学生が直面する困難などについて話し合われた。以下、写真。



【計画④】 アフガニスタンで平和教育など平和のための活動を行うアフガニスタン現地 NGO（Your Voice Organization : YVO）とそのパートナー団体の日本国際ボランティアセンター（JVC）スタッフを招いたアフガニスタンの平和活動との経験交流や平和のための両国間の連帯、ならびに活動に関する協議やモニタリング。

【報告】

- コロナウィルスの状況により、アフガニスタンからのパキスタン訪問は極めて困難になり、日本からの当団体理事によるパキスタン訪問のみとなった。現地では、青少年や関係者と会い、現地の状況について確認するとともに、アフガニスタンの状況についても伝え、両国の連帯を図った。「平和大使」のアクションならびに、振り返りのアクション2つ、アフガニスタンとの経験交流オンライン会合にも参加した。現地パートナー団体 SPADO スタッフとも活動に関する協議やモニタリングを行った。

以上